

図書館と県民のつどい埼玉 2016報告



2016年12月18日(日)に北本市文化センターで、「図書館と県民のつどい埼玉 2016」が開催されました。

午前は作家の石田衣良さんの記念講演、午後は子ども読書活動交流集会のほか、ビブリオバトルや展示コーナーなど、終日大勢の方でにぎわいました。

(詳しい内容は、埼玉県図書館協会のウェブサイトをご覧ください。)



注目! 報告と交流「学校図書館のいま ～法改正はしたけれど～」 記録から

学校司書法制化を受けて学校図書館や学校司書への関心が高まっています。昨年に引き続き、学校図書館について報告と交流の場を設けました。その中で、学校図書館を考える全国連絡会代表の水越規容子氏に、学校図書館の現状や課題についてお話しいただきました。



学校図書館の現状

学校図書館の捉えられ方は、国や自治体、教員や学校司書など現場で学校図書館にかかわっている人、保護者や市民、マスコミ、研究者や有識者など、それぞれの立場によって認識・評価に大きなズレがあると感じています。

学校図書館の整備については、「ひと・もの・かねを欠く」といった現状です。文科省図書標準を達成している学校は、小学校約6割、中学校約5割となっています。図書標準を達成しているといっても、実際には使えない古い資料をカウントしている場合もあります。そして、司書教諭はいるものの、図書館を担当している時間は平均約1.5時間です。資料があってもそれを活用していくためには人が必要であり、「要は人」といえるでしょう。

学校司書について

法改正により「学校司書」の職名が確立され、専門的な仕事であると認識されるようになりました。学校司書配置率の推移は、10年前と比べ小中学校では約2倍に増えています。しかし、雇用状況は約8割が非常勤で、採用条件も資格・経験なしが3割を超えています。一概に配置といっても、実態は多種多様なのです。

子供たちが本にふれあう場所として、学校図書館は基盤であり、学校図書館こそ充実しなければなりません。学校図書館に関わる人が声を上げていくことがますます重要です。

埼玉県立図書館からのお知らせ

☆読み聞かせ・ストーリーテリング☆

はじめての研修会やってみませんか?

【読み聞かせボランティア団体のための講師派遣】

- 対象■小中学校や幼稚園・地域で活動するボランティア団体
 - 内容■初心者向け講座(2時間程度)。絵本の持ち方、本の選び方、覚え方、語り方など。
 - 講師■県立久喜図書館で養成したおはなしボランティア指導者がやさしくアドバイス!
 - 申込み方法・期限■開催の1か月前半までに、郵送または電子申請で申込み
 - 問い合わせ■ 0480(21)2659 【kuki-jido@lib.pref.saitama.jp】
- 【https://www.lib.pref.saitama.jp/stplib_doc/ko_shien/shien1.html (申込書式)] 申込受付はこちら→



アンケートに御協力ください

より良い誌面作りの為に、同封のアンケートにお答えください。

また、インターネットでも受け付けていますので、埼玉県立図書館ウェブサイト内「子ども読書支援」ページの「子ども読書支援情報誌 Shien」にアクセスするか、右下のQRコードを読み取って回答してください。

平成29年4月30日

まで受け付けています。



編集後記

時間は有限。読める本の数も有限。その中ですてきな1冊に出会えるのは、まさに偶然であり奇跡。子どもの読書に携わる人は、みんな「奇跡への水先案内人」。

(職員A)

編集発行 埼玉県立久喜図書館
子ども読書支援センター
協力 子ども読書支援ボランティア

埼玉県立図書館のウェブサイト「子ども読書支援サービス」
<https://www.lib.pref.saitama.jp/> ※バックナンバーはこちら

〒346-8506 埼玉県久喜市下早見85-5
TEL 0480(21)2659 (代) 彩の国 埼玉県
FAX 0480(21)2791

子ども読書支援情報誌

携帯用QRコード

しえん

Shien 第23号

子どもの読書に関わる方々の活動とネットワークを支援(Shien)する。そんな大きな願いをもったささやかな情報誌です。

平成29年3月1日 発行

埼玉県立久喜図書館 子ども読書支援センター



【目次】

- 巻頭言 1
- 連載：おはなし・読み聞かせ実践講座⑳ . . . 1
- 連載：子ども読書支援関係ボランティア団体等紹介㉑ . 2
- 新聞・雑誌クリッピング担当から 2
- ブックリスト担当から 3
- インターネット情報からの情報収集担当から . . . 3
- 図書館と県民のつどい埼玉2016報告 . . . 4
- 読み聞かせボランティア団体のための講師派遣 . . 4



本を選ぶこと

読み聞かせボランティアは、子どもたちと本を結びつける手助けをするという役目を持っています。

子どもに本の楽しさを届けるためには何を读むのか、選書がとても大事になります。でも「どうやって本を探したらいいのかわからない」という声を聞くことがあります。「わからない」と言いながら活動している人に、今はどう選んでいるのかを聞いてみると、その中には「本屋で推薦されている本とか、パソコンで“いいね”がたくさんの本を選んでいきます」というのがありました。「多くの方がいい本と言っているので選びました」というのです。

誰かが薦めている本を、そのまま子どもに読むというのはどうなのでしょう。子どもに本を読みかきさせるのは自分なので、自分で読んでみて良いと思うことが大事です。良いリストを使って本を探し、基礎となる本にたどりついたら、それを参考にして本を選び、自分で実際に本を手に取り、絵を見て、声に出して読んでみましょう。自分の気に入ることも大事ですが、子どもにとってその本はどうかを良く考えて読んでみましょう。読み聞かせは、読み手と聞き手が本にふれあい、楽しむ時間でもあるのです。

大量の本の中から、良い本を拾い出すのは難しいことです。日頃からたくさんの本を読んで、選書の目を養うとよいでしょう。

青木さち子(おはなしの会「虹」)

おはなし・読み聞かせ実践講座 ㉓

読み聞かせなどのワンポイントアドバイスをリレーでお届けするコーナーです。

私は、小学校のボランティアで読み聞かせやブックトークをしています。

絵本から読み物への足掛かりとなる「長い本の読み聞かせ」は時間的に難しく、出来ていませんでした。『読む力が未来をひらく』(協明子著 岩波書店)を読み、ますます思いが募っていた時、チャンスが到来しました。小学三年生への読み聞かせがいつも月一回だったのが、ある月だけ二回になり、一回15分なので合わせて30分で本が読めることになったのです。

選書は、次の読書に繋がるように学校図書室の本から行いました。候補となった本を片っ端から読み、時間を計りましたが、きりのいい所で終わるには30分では厳しかったので、担任の先生に続きを読んでいただくようお願いし、三回45分で読める本を選びました。

一回目と二回目は、続きが気になるちょっぴり怖い内容の『ムジナ探偵局 名探偵登場!』(富安陽子著 童心社)のはじめの文と、一つ目のお話「白い木箱」にしました。当日は、ボランティア仲間が読んだのですが、一回目の最後に「つづく」と言った時の子ども達の続きを気にする残念そうな雰囲気や、二回目に教室に入った時の「待ってました」という様子を仲間から聞きました。その後、先生が忙しい時間をやりくりして、一つ目のお話を読み終えてくださいました。『ムジナ探偵局』シリーズは全部で9冊もあるのですが、嬉しいことに、学校図書室にあるシリーズ本を借りてくれている子ども達もいました。

これが小さなきっかけとなって、子ども達には、長い物語を味わってもらい、時間を忘れるような読書体験をしてもらいたいと願っています。

大塚由紀(子ども読書支援ボランティア)

松伏町「おはなしランド」

子ども読書支援関係ボランティア団体等紹介②

乳幼児から大人まで楽しめる絵本

おはなしランドは平成3年に、松伏町立赤岩公民館の事業として始まりました。月2回、絵本や紙芝居の読み聞かせや手遊びなどで楽しんでいます。

仲間の中から、「大きな画面で紙芝居を見せてあげたいね!」という声が上がリ、平成11年から手作りの大型紙芝居を作り始め、今では10作品になりました。昨年11月に新作発表会を開催しましたが、幼児から御年配の方までいらしていただき、年齢を越えて楽しむことができました。

平成15年には地元の小学校、その数年後には中学校や子育て支援センターからも声がかかり、読み聞かせをしています。街中で子どもたちに会った時、「あっ紙芝居のおばさんだ!」などと声をかけられたり、中学生の生徒さんに静かに耳を傾けてもらえたりして、とてもうれしいです。私たちにとっても、絵本選び等、勉強になることが多々あります。また、子育て支援センターでは、手作りの絵巻物やペープサートなどで親子一緒に楽しいひと時を過ごしています。

平成19年に、伊藤忠記念財団より子供の本購入助成金を頂き、大型絵本等を購入することができました。小さな絵本では読み手聞き手の距離が身近に感じ、大型絵本では迫力も感じてもらうことが出来、より読み聞かせの内容も充実しました。

これからも、子どもたちに、絵本や紙芝居の良さを受け入れてもらえるように、私たちも日々努力していきたいと思ひます。

吉田芳江（松伏町「おはなしランド」）

きいぬき羅針盤

新聞・雑誌クリッピング担当から

2016年は学校図書館年でした。Shien9号(2008.9)では「授業で使おう学校図書館」という記事を紹介しましたが、今回は「快適な空間へ変わる学校図書館」という記事を御紹介します。

★神奈川県立田奈高校の図書館は、学校司書が週1回カフェを開設しています。出入りしやすい雰囲気を作り、「子どもたちの居場所」としての図書館を提供しています。

(「学校図書館の今 1」読売新聞 2016.10.20 朝刊 19面)

★埼玉県立春日部女子高校の図書館は、カラフルなポップやゆったり座れるソファがあり、癒しの音楽が流れ、まるでブックカフェのようです。また、さいたま市大谷場中学校と大谷場東小学校の共有図書館は、天窓から日が差し込み、解放感があって、小・中学生交流の場として人気の学校図書館です。

(「学校図書館 生徒と距離近く」朝日新聞 2017.1.29 朝刊 27面)

このような学校図書館には学校司書の存在が欠かせません。「第62回学校読書調査」では、5割近くが学校図書館の先生に、「安心できる場を作ってくれることを期待」とありました(毎日新聞 2016.10.27 朝刊 28面)。

司書のいる学校図書館は本の利用や貸出数が増加しています(読売新聞 2016.10.21 朝刊 21面)。埼玉県の小中学校の学校司書配置の市町村は6割(毎日新聞 2016.12.16 朝刊 25面)で、全国平均とほぼ同水準です。学校司書のいる居心地の良い学校図書館で、本に親しむ子どもが更に増えることを願っています。

仁昌寺（子ども読書支援ボランティア）

使えるブックリスト

ブックリスト担当から

☆10分プログラム

- ①「ピンときた! (『のはらうた3』より) (1分30秒) (くどうなお作 童話屋)
- ②『ゆかいなかえる』(4分30秒) (ジュリエット・カシユ作 石井桃子訳) (『およぐ』(3分30秒) (なかのひろたか作 福音館書店)
- ③『みずたまレンズ』(3分30秒) (今森光彦文・写真 福音館書店)

③は、天気などによって使い分けてください。

低学年

☆15分プログラム

- ①『たなばたむかし』(9分) (大川悦生作 石倉欣二絵 ポプラ社)
- ②『ねこのはなびや』(5分) (渡辺有一作 フレーベル館)

『ねこのはなびや』は花火がきれいで、とっても楽しい作品です。

中学年

- ①『セコイア 世界で一番高い木のはなし』(12分) (ジェイツ・ソフ作 萩原信介訳 ポプラ社)
- ②『ことばあそびうた』(1~2分) (谷川俊太郎作 瀬川康男絵 福音館書店)

②から「かっぱ」などを紹介してみてください。子どもたちにも一緒に声を出してもらおうと、いっそう楽しいです。

全リストはココから web トップブックリスト 中北（子ども読書支援ボランティア）

インターネットからの情報収集担当から

知っ得情報!

** おすすめウェブサイトの紹介 **

今回は「だれもが楽しめる本」に関するサイトを紹介します。

- ☑ ようこそバリアフリー絵本の世界へ <http://www.bf-ehon.net/>

バリアフリー絵本に関する情報がたくさんつまったサイトです。

- ☑ エンジョイ・デージー(DAISY研究センター) <http://www.dinf.ne.jp/doc/daisy/>

日本障害者リハビリテーション協会情報センター内「DAISY研究センター」のサイト。電子図書マルチメディアデージーに関する情報を掲載しています。通常の図書に加え、デージー教科書も紹介しています。

- ☑ ユニバーサル絵本ライブラリーUniLeaf <http://unileaf.org/>

ユニバーサルデザイン絵本UniLeaf Books(本文を点字にした透明シートを挟み込んだ、点字を使う子どももそうでない子どもも楽しめる絵本)の製作・普及活動を行っている「UniLeaf」のサイトです。

大澤（子ども読書支援ボランティア）

県立久喜図書館でも、マルチメディアデージーを始め、図書館の利用に障害がある方向けの資料を取り扱っています。詳しくは障害者サービス担当(0480-21-2729)までお問合せください。